

【er動詞の例外？】 préférer, repérer... アクサンの向きはなぜ変わる



「er動詞の例外？」シリーズ第二弾、今回は préférer, repérer タイプの動詞についてです。

[前回](#)を振り返ると、 acheter, appeler などの動詞はアクサンや子音を加えることで、まったく読まなかった e を [] (広い「エ」) と発音できるようになるのでした (なぜ子音を二つにすると「エ」と読めるようになるかは説明が長くなるので、気になる方は[アンサンブルアンフランセのレッスン](#)でお聞きくださいね)。

では préférer などの動詞はどうでしょう？

「e」の性質を知ること

préférer は一人称単数に活用させると je préfère

。原形と違うのは「アクセントの向き」です。一つ目のアクセント・テギュはそのままですが、二つ目が逆になっています。

もちろんわけもなく反対になったりしないし、打ち間違いでもありません。こういった変化は例のごとく、すべて**発音しやすくするために**起こるのです。

ここを
理解するため

には、フランス語で発音し

やすいのはどんなときなのか（以前の[記事【発音規則のおさらい3】](#)

を参照）、それから変幻自在のアルファベ「e」の性質をわかっておくことが重要です。

「e」の読み方

今まで見てきた流れだと、e は

- ・何もついていないときは、全く読まないか、弱く読む([])か、[]と読む
- ・アクセント・グループがついているとき(è)は、[]と読む

という性質がありました。これに加え

- ・アクセント・テギュがついているとき(é)は、[e] (狭い「エ」) と読む

のです（何もついていなくても [e] と読むことがあります。ややこしい...）。

[] と [e]の違いが重要

[] と [e] の区別は、普段はそこまで気にする必要はないものです。しかしアクセントの向きが問題になるときは、けっこう重要だったりします。

音の違いを説明すると...

[] = 「ア」と言うつもりで口を大きく開いて「エ」と言う。

[e] = 「イ」と言うつもりで口を横に引いて「エ」と言う。

[] が広くゆったりと包容力があるのに対して、[e]

は短く尖っています。実はこれが問題なのです。

préférer **で説明すると...**

préférer は原形だと [pre | fe | re] と発音され三音節です。これが活用形になると、原形で読まれていた最後の [e] がなくなり、[pre | fer] と二音節になります。

しかし [e] は刃物で切ったような鋭く短い音。音節の最後に置くことは出来ても、後ろに [r] を迎え入れる余裕はないのです。

そこで [] の出番です。[] は口の力を抜いて広くゆっくり出す音なので、後ろに子音を取ることができます。

よって [prefer] ではなく [pref] のほうが好ましくなり、[] と発音するのだから é ではなく è と書きましょう、というわけですね。

関係ないようなところにも法則が

ただでさえムズカシイ音の現象を文字で書いているので、わかりづらいところも多々あると思います。それにフランス語の「言いやすさ」が感覚的にわかるようになるには、それこそたくさんの練習と時間が必要です。

完璧でなくてもいいのです。でも **一見なにも関係ないようなところに法則がある** と知るのは大事だし、e にもいろいろあるとわかっておくと、さまざまところで役に立ちます。

次回はシリーズ終章、 manger, commencer ... についてです。

執筆 アンサンブル講師 Hibiki



オンラインフランス語学校

ENSEMBLE EN FRANÇAIS

アンサンブルアンフランセ

オンラインフランス語学校アンサンブルアンフランセは、プロの講師によるマンツーマンのスカイプレッスンが1回1500円～受講できます。いつでもどこでも手軽に受講できる利便性と生徒一人一人にカスタマイズされた質の高いレッスンが好評です。

